

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 京都市春日丘老人デイサービスセンター

1 施設の管理運営

- ・介護保険に関わる業務（通所介護事業、介護予防通所事業）
デイサービスセンターまで車で送迎し、入浴、食事、機能訓練やレクリエーションを実施する
- ・介護保険外で高齢者福祉に関わる業務（相談支援業務）
営業日：月曜日～土曜日（年末年始を除く） 受付時間 8:30～17:30
利用定員30名 通常の事業実施地域：伏見区醍醐 宇治市

2 事業実施内容

本来業務：老人デイサービスセンター
・介護保険に関わる利用者へのサービス展開
健康状態の確認を行う。入浴、排泄、食事、移動、送迎等その利用者のニーズに応じた必要な介助を行う。
身体機能低下を防止するために機能訓練やレクリエーションの援助を行う。
必要に応じて日常生活における介護、相談、助言を行う。

企画提案業務

- ・配食サービス事業
- ・訪問型サービス（訪問介護、定期巡回随時対応型訪問介護看護）
- ・障害福祉サービス（訪問系）（居宅介護、重度訪問介護、行動援護）

自主事業の実施状況は、以下の通り。

3 サービス提供状況

センター長1名 相談員4名 介護職員7名（兼務含む） 看護師3名（兼務含む）

再委託の実施状況（協定書に明記のない再委託業務）は、以下の通り。（例：給食調理業務）
特になし

4 市内中小企業への発注に対する考え方

- ・給食の原材料の発注や納品を実施。
- ・清掃業務の委託を行っている。

5 施設の利用状況（本来業務に係る施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

実利用者

①令和7年度実績値	827	人
②令和8年度目標値	850	人

(2)延べ利用者

①令和7年度実績値	6,438	人
②令和8年度目標値	7,176	人

(3) 収支実績

ア 本来業務（老人デイサービスセンター）

令和7年度収入状況及び支出の状況（単位：円）

介護保険収入	52,955,044
利用料収入	11,089,828
委託料収入	
補助金収入	599,892
寄付金収入	
雑収入	
その他	139,590
収入計	64,784,354

人件費	43,575,402
事業費	9,270,483
委託費	777,919
小額修繕費	779,944
その他	3,913,231
支出計	58,316,979

イ 企画提案業務1（配食サービス事業）

令和7年度収入状況及び支出の状況（単位：円）

介護保険収入	18,335,849
利用料収入	3,434,965
委託料収入	
補助金収入	
雑収入	
その他	
収入計	21,770,814

人件費	4,159,760
事業費	13,829,550
委託費	1,168,767
その他	883,380
支出計	20,041,457

ウ 企画提案業務2（訪問型サービス：介護）

令和7年度収入状況及び支出の状況（単位：円）

介護保険収入	47,367,537
利用料収入	5,395,288
委託料収入	0
補助金収入	434,949
雑収入	0
その他	(300)
収入計	53,197,474

人件費	9,656,512
事業費	37,684
委託費	12,559
その他	218,014
支出計	9,924,769

エ 企画提案業務3（障害福祉サービス（訪問系））

令和7年度収入状況及び支出の状況（単位：円）

介護保険収入	11,803,762
利用料収入	0
委託料収入	0
補助金収入	248,818
雑収入	0
その他	0
収入計	12,052,580

人件費	9,656,512
事業費	37,684
委託費	12,559
その他	218,014
支出計	9,924,769

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- ・個別通所介護計画を作成し、その作成の過程において利用者満足度を把握する。
- ・利用日ごとに、利用の際のバイタルサイン等を記載した連絡簿を作成し、それに対して意見や要望を記入して頂く。
- ・介護支援専門員からモニタリング等により、サービスへの期待や要望がもたらされる。

(2) 利用者満足度把握の結果

- ・数年前に比べて、利用者が増加していることから、利用者の満足感に役立っていると考えている。
- ・食事の9割以上の利用者より好評を得ている

(3) 意見等への主な対応状況

基本的には相談員を中心に対応している。できるだけ早めの対応を徹底するため、全職員が対応できるように目指している。

7 その他特記事項

(1)

利用前希望者に「お試し利用」を実施。地域との共生を目指して、醍醐いきいき市民活動センターと共同して、利用者作品の展示等を行っている。

(2)

内外部の研修や勉強会に参加し、介護職員の資質向上に努めている。

8 評価（指定管理者自己評価）

利用状況や利用者ニーズの把握を行い、利用者ニーズに応じた支援やサービス内容の充実に努めることで、利用者の利用促進につながった。

収支状況については、光熱水費や物価上昇の影響が見られたものの、事業収入は安定して推移しており、適切な事業運営を継続することができた。また、経費節減や効率的な施設運営にも努め、安定した運営体制の維持を図った。

また、虐待防止や権利擁護、感染症対策、BCP（業務継続計画）及び生産性向上に関する各種委員会や会議を定期的開催し、職員間で情報共有や課題整理、支援内容の確認を行った。内部研修については動画研修を活用することで、全職員が統一した内容の研修を受講できる体制を整え、職員の知識及び意識の向上を図った。障害者差別解消法に基づく不当な差別の禁止や合理的配慮の提供についても継続して周知を行い、利用者一人ひとりの尊厳の保持及び人格の尊重を基本とした障害福祉サービスの提供に努めた。